

# 「いそがれる学内(人材)の改革」

経済学部同窓会 会長 勝 場 政 範

## こまざわ 経済 通信

発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1

経済学部同窓会の皆さんには、日頃から母校発展のため何かとご協力ご支援をたまわり役員を代表して心より感謝申し上げます。

昨年十二月二十日「こまざわ経済通信(十四号)」発行以来早もので半年が経過いたしました。政治、経済をはじめ社会全体が活力を失ったままグローバル化とIT化の波が押し寄せ、更に最近国際間の数々の予期せぬ出来事に加え国内的には事前の準備も不十分のまま、あまりに急激な改革が求められて、従来より問題をかかえている経済、政治の低迷と入り乱れて一層社会の不透明度を増幅しております。

それでもわたくしたちは日本人の知恵と工夫で二歩前進一歩後退しつつも着実に前に向かって安定成長を願うばかりです。

今、「世代交代と改革」は時代の流れであり、変化の中で生き残るには、どう対処したらよいか、それぞれ分野で目に見える形で対応にとりかかっています。

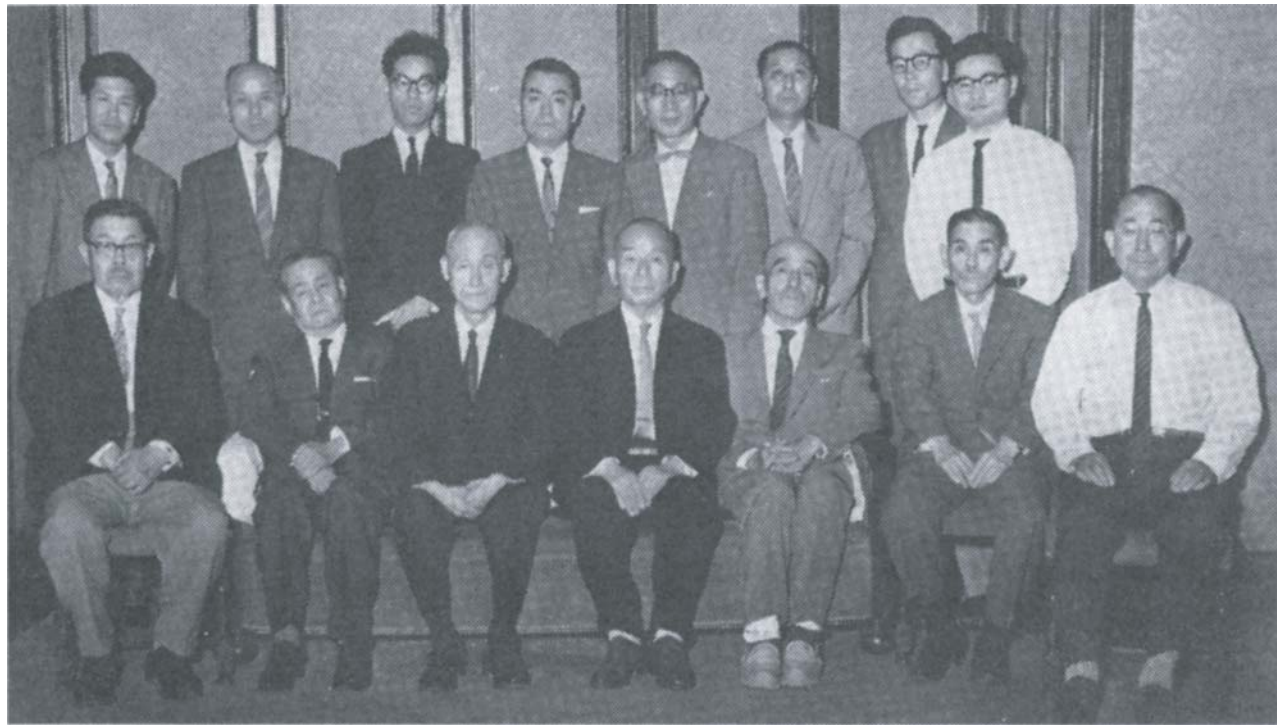
全てが従来のように供給サイドでシステムが決まっていたのではなく、需要サイド、要するに市民であり消費者によって社会のシステムが形づくられ格付けされていくと言うのが二十一世紀の姿のようです。ご承知の通り大学改革も例外ではありません。駒澤大学も生涯学習の一環として世界の変化に対応する社会との「壁」のない人材を養成する機能を持つべきでしょう。例えばロースクールであり、ビジネススクール

であって、かつ人間形成を伴う特色が要求されるのではないのでしょうか。

大谷学長が駒澤大学の二十一世紀マスタープランとアクションプログラムを発表され、その各論にとりかかっておられることは、学園通信並びに同窓会報等でご承知のことと思います。二十一世紀に生き残るための重要で困難な構造改革の基本形を変えるだけでなく、教え子先生の人材改革を伴うものでなければなりません。

そのためにも大谷学長プランの実現に同窓会あげて積極的な支援と声援を送り続けようではありませんか!

最後に駒澤大学の発展と同窓生の各界での活躍とご健康を心よりご祈念申し上げます。



一九六三年 撮影於 神田学士会館  
(提供 永田正臣教授)

- |         |           |           |         |           |         |         |       |
|---------|-----------|-----------|---------|-----------|---------|---------|-------|
| 古 庄 正   | 寺 中 良 二   | 長 谷 川 誠 一 | 上 山 義 昭 | 長 谷 川 忠 一 | 永 田 正 臣 | 吉 澤 文 男 | 遠 藤 孝 |
| 片 岡 義 雄 | 森 輪 清 一 郎 | 三 輪 清 一 郎 | 森 莊 三 郎 | 笠 森 伝 繁   | 浅 井 清   | 藤 井 新 一 |       |
- (前列より)
- (後列より)

変な状況をもよおしています。しかし、それに比例して駒沢大学から大学正門までの狭い道路において学生の通学マナーが問題となっています。特に混雑時の歩きタバコが近隣の人々から指摘されています。我々、教職員も大いに反省しなければいけない問題だとも思います。大学では、学生ボランティア、教職員一体となって、通行マナーキャンペーンを実施したりしていますが、まだまだ改善には程遠いものがあります。5月から首都圏の私鉄各線は全駅禁煙となりました。愛煙家の人はますます隅に追いやられていく世の中になってきました。一人のマナー違反が、ルールを守っているその他大勢に迷惑をかけているのです。少数の学生のマナー違反で、その他大勢の駒大生すべてが同じようにみられてしまいます。同窓生の皆様で駒大生のご子息をお持ちの方は、是非通学マナーだけではなく、社会のマナーやルールを守って生活するようお願いください。これらの良い習慣を身に付けることによって、就職活動などに活かされてきます。私たちも社会人の先輩として率先してマナー、ルールを遵守していきたいとおもいます。

## 四季報

駒沢公園は  
緑一色、新緑  
真っ盛りで  
す。  
大学は新入  
生を迎えてキ  
ャンパスは大



# 経済学部ゼミシリーズ

## ★阿部ゼミ

始めまして！今年度ゼミ長をさせて頂く事になりました。経済学部経済学科四年の野中雅道と申します。今年のゼミは二十五人と多く私もと嬉しく思います。これをまとめて行くのは困難かもしれないけれど、ゼミ生と共に「団結力」の言葉の下に今年も阿部先生の

「自由」という方針の中、頑張っているのと、何と何と申すので、何かありましたら御指導の程宜しくお願い致します。また、毎月、OBゼミ生との定例会も開催しております。

七月	ゼミ論研究	川澄智隆
八月	夏ゼミ合宿 (OBも参加)	「公共」という言葉 川澄智隆
九月	ゼミ論研究	ビールと人々 栗屋文彰
十月	ゼミ論研究	政治によって景気良くなるのか 光山武秀
十一月	ソフトボール大会	経済学部経済学科
十二月	ゼミ論発表	四年 野中 雅道
一月	テスト期間	携帯 〇九〇一二九七
二月	冬ゼミ合宿 (OBと合同)	六〇一八七六六九 自宅 〇三一二七〇五
三月	文集製作・追いかコン	メールアドレス masanonakam@yahoo.co.jp
去年度卒業ゼミ論テーマ	大倉慶之	携帯アドレス masa5716b24@jp-h.ne.jp
長野県政	岡田晋租	
幸せ(幸福)		



## ★大吹ゼミ

三年 掘込弥生  
OB・OGの皆様、いかがお過ごしですか？とうとう大吹ゼミも二十九年目になりました。私達二十九期ゼミ生(三年)は、総勢八名(男二、女六)と少数ですが、先生の若さあふれる情熱に感化され、只今大吹街道まっしぐらです。今年「現代物流システム論」のテーマのもとで、現代企業における物流のあり方について学んでいます。IT化

が進み、物流は新たな局面を迎え、さまざまな業界から注目されています。私達は、これを学び、得た知識を自分のものにする事で、現代の就職戦線を勝ち抜こうと考えています。そんな私達に御指導を頂ければと思います。さてさて、大吹先生の近況としては、とても五十八才とは思えない元気っぷりで、「ヤンキーだかモンキーだかわからない」(大吹

語録より)近頃の若者をもろともせず、情熱的な授業を繰り広げています。またの私生活では鉄の馬、ハーレーにまたがり、疾風のごとくかけています。研究室には、畳にソファという何とも先生らしい異空間が広がり、最初は戸惑いを隠せなかつた私達にとっても安らげる憩いの場になっています。そんな研究室で毎週繰り広げられるゼミは、毎回白熱しすぎて、真冬でも汗がにじむほどです。先生は、解答を教えてくださいません。しかしそれは、私達自ら考え、答えを導き出す力を身に付けさせる為なのです。だからこそ私達は、先生の情熱に感ずる為、また自分自身の向上の為に尽力するのです。私達は、これからの大吹ゼミ生として、先生のもとで成長していきたいと思っております。その中で、OB・OGの皆様の経験を参考にさせて頂きたいと考えておりますので、その時には良きアドバイスをお願いいたします。OB・OGの皆様、合宿やコンパそして年末の合同(一年・四年)パーティーにも御参加下さい。ゼミ生全員でお待ちいたしております。(写真は右から三人目が筆者。大吹先生自慢のハーレーに乗るゼミ生)

## ★古沢ゼミ



アフリカ経済学ゼミって何?!きつとみんなそう思うだろう。ゼミの説明会に行ったときに古沢教授はこう言った。「みんな、経済学が本当に好きな?」「ゼミ時間を、自分の表現したいことに使ってほしい。自分のやりたいことをしてほしい。みんな本当にやりたいこと出来るのかな?!」…、「アフリカ」「経済学」の話は一度も出なかつた。「何をこの人は言っているのか?!」って感じだったけど、すごく嬉しかった。こんな考えの人が教授にいらなんて本当にびっくりした。そんな古沢教授は、本当に「自由人」ということばがピッタリの人だ。最近の先生の口癖は「若さからの解放が嬉しい。」もう怖いもの無しって感じだ。合宿中は酔っ払って服のまま風呂に入ったり、本気でビールをかけたあたり…、しか



し、先輩方の武勇伝はもつと凄く、想像するだけで恐ろしい……。そこに集まる学生はといえば、先生曰く、「FUNKY」な人たちだ。FUNKYという言葉は西アフリカの「FONK」が語源といわれている。FONK：ポジティブな汗。この言葉がびったり。何をやるにも、FONKで行動すれば人は自由になれる。そのトッポに君臨するのが「K君」だ。そう、あのメジャーなヴォーカリスト「K」は古沢ゼミ出身者だ。これは先生の自慢話の一つだ。〔笑〕

昨年、数人の学生がジャンベ（西アフリカの民族楽器。片面太鼓）の演奏を始めた。唯一のアフリカっぽい一面だ。

自由であったり、FUNKYでいることは簡単なことではない。でも、このゼミの中にはそれが存在している。

## ★光岡ゼミ

光岡ゼミは、私に社会を広い視野で捉える事を教えてくれたと思います。最初から一つの専門的な分野のみについて学ぶのではなく、社会には様々な面で様々な問題がある事を学び、その上で、それらは経済と深く結びついていて経済が社会においていかに大切なものであるのかという事を考えることができました。そこから、各自の興味に沿って研究を進めていくゼミのスタイルは、学生一人一人のそれぞれのやり方を先生が尊重して見守ってくださっていたからこそだと感じます。また、光岡先生はと



卒業式にて：左端が増山亜由美さん

でも私の目に焼き付いています。そして先生は、学生一人一人と向き合っている時間を持ってくださったり、普段なかなか何う事がないようなお話を私達にしてくださいました。そうすると、毎年自然の豊かな場所を選び、ゼミの仲間と新鮮な環境の中でいつもとは違ったゼミの時間を過ごす事ができたのは、とても貴重な思い出です。自然の中で見た皆の生き生きとした表情は、今

私達、学生時代にこのようなとても人間味に溢れ、自然体の自分や仲間を感じながら頑張る事のできるゼミで過ごせた事に感謝しています。

今後も大勢の人との出会いを大切に、多くの人と関わっていく中で、多くの事を学び、幅広い視野を持って社会のことに考えられる人間になっていけるよう、頑張っていきたいと思っています。

平成十三年卒業生  
増山 亜由美

## ★谷敷ゼミ

私達、谷敷ゼミナール四年生はゼミの第二十八期生で、諸先輩方が築いた伝統を受け継ぎ、谷敷ゼミの理想である人と人がお互いに協力し合い、一つの目標に向かって日々努力という伝統を守り、自己を成長させるとともに皆仲良く活動しています。

ゼミの研究は、戦前・戦後の経済発展の要因や構造的発展の解明と経済発展の基礎をなす教育にも焦点をあて、教育と経済発展とのかかわりについて討論や発表を行っています。討論によっていろいろな捉え方があることを学び、より深く考えるようにしています。学年末には、各学年とも一年の研究活動の成果を論文にし、一冊の「論集」にまとめています。今年「第二十八巻」を作成し、私達の研究活動の足跡を形として残す事が出来ました。昔は論集作成にお金がかかり大変苦労したのですが、今では大学から補助金が出て、随分楽になったと先生が言っていました。

毎年、夏休みには二・三年生合同で「夏合宿」を行い、交流を深めています。事前に合宿スケジュールや活動内容を自分達で決めていきますので、今年も充実した「夏合宿」にすることが出来ました。合宿は研究活動もありますが、勉強後のレクリエーションがとて楽しめで、今年二・三年生対抗フットボール、バレーボール、バスケットボール、ボーリング大会を行い、親睦を深める事ができました。昔の先輩達は十和田湖、裏磐梯高原、山形蔵王、野辺山高原、清里、白樺湖、蓼科高原、伊豆下田、伊豆松崎など随分遠くで「夏合宿」をしたと先生から聞いていますが、最近先生の強い方針でお金をかけずに箱根、館山、三崎など「安近短」で行っています。

四年生になる直前に「就職合宿」を八王子の大学ゼミナールハウスで行いました。私達四年生は諸先輩に厳しくご指導いただいた事で、厳しい就職戦線も全員自信を持って臨む事が出来、今では大変感謝しています。

秋には、毎年恒例の経済学部・経済学部同窓会主催のソフトボール大会に出場し、今年の四年生は力を合わせ、結果、準優勝する事が出来ました。最後の決勝まで仲間と一緒に戦いが出来、ますます絆が深まったことが強く印象に残っています。

（経済学科四年 廻 昌裕）



力し、助け合う事で、様々な事に対して力を発揮する事が出来たと思います。四年生はもう卒業ですがゼミで学んだ事を何時までも持ち続け、諸先輩に負けぬよう社会人として力を発揮したいと思えます。

諸先輩のご健闘、ご健勝をお祈りいたします。



# 卒業式で経済学部同窓会会長賞を授与

経済学部同窓会は、平成十五年三月二十五日に挙行された卒業式で、経済学部の学生で、優秀な成績を修め、人物共に優れた学生九名に「経済学部同窓会会長賞」が授与された。表彰された九名は、教務部で選考され、経済学部教授会で審議の結果選出されたもので、表彰者は

経済学科 大塚光春、鈴木光洋、熊坂 巧  
 商学科 呉 青、山田満久、高橋 仁  
 経済学科第二部 小笠原健一、植田く美子、内村美子である。

表彰式は、卒業式の後、各学科に分かれて行われる卒業証書授与式の際に行われ、表彰状と記念品がそれぞれの学生に授与された。

植田さん、内村さんは社会人入学で、若い学生とともに熱心に勉学に励み、ゼミナールにも所属して活躍している姿は、学生にとっても良い刺激になっていた。写真は植田く美子さん。



## 記念誌を贈呈

経済学部が刊行した「駒沢大学経済学論集」の記念号を希望者に贈呈いたします。

- |                                                         |                                                              |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 1. 「駒沢大学経済学論集」第12巻 第2・3合併号<br>……吉澤文男先生追悼号……(1980年12月号)  | 6. 「駒沢大学経済学論集」第28巻 第3・4合併号<br>……西村紀三郎先生退任記念号……** (1997年3月号)  |
| 2. 「駒沢大学経済学論集」第15巻 第3・4合併号<br>……戸田武雄先生退任記念号……(1984年2月号) | 7. 「駒沢大学経済学論集」第31巻 第3号<br>……経済学部創設五十周年記念号……** (1999年3月号)     |
| 3. 「駒沢大学経済学論集」第18巻 第1・2合併号<br>……永田正臣先生追悼号……(1986年11月号)  | 8. 「駒沢大学経済学論集」第31巻 第4号<br>……渋谷隆一先生退任記念号……(2000年3月号)          |
| 4. 「駒沢大学経済学論集」第19巻 第1・2合併号<br>……長谷川忠一先生追悼号……(1987年10月号) | 9. 「駒沢大学経済学論集」第32巻 第2・3合併号<br>……遠藤孝・寺中良二先生退任記念号……(2001年3月号)  |
| 5. 「駒沢大学経済学論集」第21巻 第3号<br>……経済学部創設四十周年記念号……(1990年2月号)   | 10. 「駒沢大学経済学論集」第33巻 第3・4合併号<br>……飯岡透・石井啓雄先生退任記念号……(2002年3月号) |

希望される方は、希望される論集「第〇巻第〇号〇〇記念号」と希望される方の郵便番号、住所、氏名、電話番号、卒業年度をご記入の上 「〒158-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

駒沢大学経済学部 谷敷 正光 (経済学部同窓会担当) 宛お送りください。部数に限りがありますのでお早めにお申し込みください。

## OBOG平成十四年度経済学部卒業生の皆様へ

今年三月卒業された経済学部の皆様本当におめでとうございます。経済学部卒業生の方は駒沢大学の同窓会に卒業と同時に入会されますが、それとは別に経済学部同窓会というものが設立されており、会員相互の懇親、大学情報の発行(経済通信)、現役学生のゼミ対抗ソフトボール大会等へ援助等を行っています。新同窓生の皆様にもぜひ入会していただき、経済学部同窓会の発展にご協力していただければ幸いです。

### 経済学部同窓会第四期分会費納入のお知らせ

平成14年度～16年度の同窓会費6,000円を同封の郵便振替口座用紙を利用しましてお納め下さるようお願い申し上げます。

### 《同窓生の皆様へお願い》

住所変更、氏名変更等が生じた場合は、大学同窓会事務局へご一報ください。

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1  
 駒沢大学同窓会 電話 03-3418-9189